★総合授業力リーダーに学ぶ　授業づくりQ&A★

さぬきの授業

基礎・基本

実践事例集別冊 Ⅵ

～子どもに学びのときめきを～

平成31年2月

香川県教育委員会

目　次

Ⅰ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１ｐ

Ⅱ　総合授業力リーダーに学ぶ　授業づくりＱ&Ａ

○　教師の表情・話し方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２ｐ

○　発問・助言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５ｐ

○　指名、発言の取り上げ方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６ｐ

○　板書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８ｐ

○　ノート指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０ｐ

○　グループ学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２ｐ

○　学習意欲を高める指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３ｐ

○　考える力を育てる指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６ｐ

Ⅲ　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２ｐ

Ⅰ　はじめに

「授業が上手くなりたい。」「〇〇先生のような授業ができるようになりたい。」「子どもたちに活発な話合い活動をさせたい。」等、日々授業を行っている先生方は、様々な願いや憧れを抱いて、教壇に立たれていることと思います。

また、「～の時、どうすればよいのだろう。」「どのような発問をすればいいのだろう。」等、悩みも多いことと思われます。それは、日々、真摯に授業に取り組んでいるからこその声だと思います。

教職員の心を最も大きく動かすのは、実際に目の前で良い授業に出会ったとき、そして、経験を積んだ方々の重みのある言葉と出会ったときです。自身の仕事への憧れがあってこそ、教職員は自ら学んでいこうとし、様々な研修の場が一層生きていくと考えています。

ご存知にように、香川県は、数年前より大量退職、大量採用の時代を迎えており、学校によっては、教職員の半数以上が２０代の若年教員という学校も珍しくありません。長い年月をかけて培ってきた香川の勤勉な教師文化の継承と子どもの主体性を大切にした分かる授業づくりに向けた授業改善が課題となっています。

このような状況の中、本事業は、優れた指導技術の継承を目指し、県内教員の授業力の向上に資することを目的とし、総合授業力リーダーの方々には、普段着の姿で範を示して欲しいということをお願いして、授業公開していただいております。「当たり前のことを当たり前に積み重ねていく」という地道な取組こそが、個々の子どもを伸ばしていくと思うからです。日頃から大事にされていること、当たり前だけれども、決しておろそかにしてはいけないことが子どもを育てるのだということを大切にして欲しいと思います。

参会者においても、「さぬきの授業　基礎・基本〔改訂版〕」を手がかりの１つとして、本時を支える普段の取組（教科経営、学級経営、教材研究）等について、自分の学校や授業を行う学級の実態を踏まえ、どのように授業づくりをしていくのかといった視点で総合授業力リーダーの授業を参観されたことと思います。

本冊子は、総合授業力リーダーの実践をＱ＆Ａ形式でまとめたものであり、「さぬきの授業　基礎・基本〔改訂版〕」とあわせて活用いただくことで、日々の教育活動を踏まえて、授業づくりの視点を考えることができるのではないかと思っています。

最後になりましたが、力のこもった授業づくり・授業公開をしていただいた総合授業力リーダーの先生方、運営等にご協力いただいた校長先生、教頭先生をはじめとする各校の教職員の方々、その他関係者の方々に深く御礼申し上げます。

Ⅱ　総合授業カリーダーに学ぶ　授業づくりQ＆A

高松市立仏生山小学校　第6学年国語科「町の未来をえがこう『町の幸福論』」（阿見陽子先生）の実践に学ぶ

Q　遅れて進む児童や特別な支援を要する児童に、どのような支援を行えばよいのでしょうか。

A　本時におけるその子の到達目標を描いておき、そこに近づけるような個別の対応や全体へのかかわりを考えましょう。

具体的実践から

1　児童の考えや意図を最大限に生かした授業

本時、グループで一つの考えにまとめて、短冊に書く場面で、ある班が一つに絞れなかったときに「どうしても、無理だったら、二つ出していいよ。」と、その班だけ特別扱いにならないように、全体に同様の周知をしました。このような助言が、児童の考えを引き出し、出された意見を最大限に生かした授業になっていると思いました。

2　どの児童にも分かりやすい話し方で

特別な支援の必要な児童を意識し、普段から児童の方を向いて、唇をはっきり動かして話すことを心がけているそうです。それが、どの子にも伝わりやすい話し方につながっています。特別な支援を必要とする児童にとって分かりやすい支援は、全ての児童にとって分かりやすいものになります。話し方だけでなく、授業づくりの様々な面で、そのような指導を心がけていることが、授業者の短く的確な指示、机間指導での温かい対応などから伝わってきました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

教師の表情・話し方（P.４・５）
○聞き手を意識して話していますか？
・　話し方「５つのチェックポイント」
　□声の大きさ　□話す速さ　□間をとりながら
　□子どもの顔を見て表情や反応を確かめながら　□身振り手振りを加えて

観音寺市立観音寺中学校　第１学年音楽科「音楽・ふしぎ発見！」（伊賀瀬美保先生）の実践に学ぶ

Q 生徒にとって、楽しいと思える鑑賞の授業にするために、教材をどのように工夫すればよいのでしょうか。

A 生徒が聞いたことのある曲の速度を変えるなどして、オリジナル鑑賞教材を使い、鑑賞って楽しいというイメージをもたせましょう。

具体的実践から

1　生徒の誰もが聞いたことのある曲の活用

全員が知っている『ちょうちょ』の曲を様々なバージョンで聴かせ、それを歩く速度で示したり、生徒が思ったことを自由に発言させたりしながら、鑑賞の観点を示していました。

授業後半で、同旋律でも速度や強弱の変化で、曲想が変わることに気付いた生徒が「～ってこと？」「そういうことか。分かった。」と最後まで追求していた姿が印象的でした。

2　生徒の心に響く工夫

本時の鑑賞のポイントやねらいが、ワークシートの裏面に、先生からのメッセージとして書かれてあり、教師がどのような観点で聴いて欲しいかという願いが溢れていました。

生徒の発言に対して即座に、「その言葉が素敵。あなたがキラキラ輝いている。」等と、冗談を交えて、生徒に自信をもたせる配慮があらゆる場面で見られました

♪　伊賀瀬先生からの愛のメッセージ　♪

音楽は、人の心から生まれ人の心に届くものです。人それぞれに心は違います。だから、同じ音楽を聴いても、人それぞれに感じ方が違っていいのです。自分の感じ方を大切にしましょう。

それから、今、音楽の秘密がすべてわからなくてもいいのです。少し気をつけて聴いていればだんだんわかるようになってきます。わかってきたら、今よりもっともっと深く音楽のすばらしさを味わえるようになります。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

教師の表情・話し方（P.４．５）

○言葉に、豊かな表情を添えると、伝えたいことが協調されます。

○身振り、手振りを組み合わせることで、表情が豊かになります。

○ねらいに応じた話し方を意識することで、伝わりやすくなります。

高松市立一宮中学校　第３学年理科「酸・アルカリと塩」（茶園将光先生）の実践に学ぶ

Q 教師と生徒の信頼関係をしっかり築いていくためには、日頃からどのようなことに気を付ければよいですか。

A どんな場合であっても平常心で授業を行うことが大切であり、イライラや感情を表出させないことを意識しましょう。

具体的実践から

１　少人数で、個々のペースに応じた実験

今回の実験は簡単にできることから、班を２つに分けて、少人数で実験を行いました。実験器具に必ず触れることができる。個のペースに応じて学習できる。友達と協力できる等のメリットがあり、きめ細かい指導ができており、普段から一人一人を大切にした授業が行われていることが感じられました。実験内容に応じて、人数を変えて実験することも授業に変化を持たせることができると思いました。

２　教師と生徒の信頼関係

教師と生徒の信頼関係を大切にし、生徒へ共感的な関わりをしていました。決して声を荒げることもなく、話す口調は穏やかで優しい雰囲気で授業が進んでいきました。生徒もしっかりと話を聞いてから実験を始め、時には教師に質問をし、友達と一緒に協力しながら実験を行うことができていました。教師の生徒を包み込むような雰囲気が生徒にも伝わり、安心して授業を行うことができていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

教師の表情・話し方（P.４．５）
○教師の表情は、指導力の一部です。
- 授業前に、鏡の前に立って表情を整えてから教室に向かいましょう。
- 授業中の姿を録画して、自分の表情や話し方を確認しましょう。

高松市立弦打小学校　第４学年社会科「ごみ処理と利用
～ごみから考える私たちの過去・現在・未来～」（森啓太先生）の実践に学ぶ

Q　学習意欲をもって授業に臨んでいる様子が伝わってきましたが、どのようにして学習意欲を高めていけばよいですか。

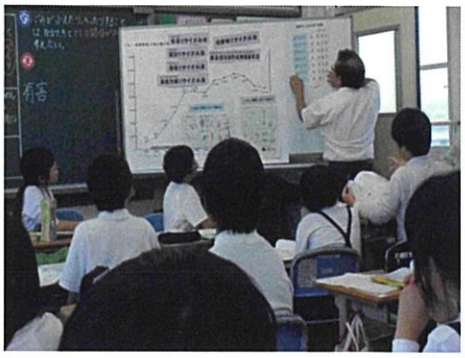
A　調べて分かったことを取り上げ、全体に広げたり、出された反応に対する揺さぶりをかけたりしましょう。

具体的実践から

１　課題意識を高め、追究したくなるように仕向ける工夫

学習内容と自分たちの生活との関連性に気付かせるために、単元構成において、時間軸を取り入れて移り変わりに着目させたり、そこから因果関係や先人の努力等に気付かせたりしていました。また、個々の知的好奇心がわくように、揺さぶり発問をし、事象について考え続けるきっかけを作ったり、資料から自己の経験や感覚とのずれを見いだしたりする工夫が行われていました。

２　学びの足跡が意識できるための工夫



全体の場で、個々が自信をもって考えや意見を発言することができており、それを互いに聴き合うことも定着していました。個々の反応をつなぎながら板書することで、視覚的にも１時間の学習の流れや学びの足跡がしっかり理解できるものになっていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

発問・助言（P６・７）　学習意欲を高める指導（P.１８・１９）

○「学習を深めるよい発問とは？」
- 簡潔、明瞭である。
- 広がり、深まり、方向付けがある。
- 具体的かつ的確である。

○「子ども自身が選択したり、判断したりできる場面をつくりましょう。」
- 子どもが選択・決定する機会をつくる。
- 子どもの言葉で授業をつくる、一人でも多くの子どもの声を聞く。

小豆島町立池田小学校　第５学年道徳「かけがえのない命（母とながめた一番星）」
（石井さゆり先生）の実践に学ぶ

Q 教材文を読む時間を十分に確保するのが難しいのですが、どのように時間を確保していますか。

A 事前の朝読書の時間に読んで、感想を書くようにしています。児童がどのようなことを感じたり考えたりしているのかを知った上で、効果的な指名へとつなげることができます。

具体的実践から

１　背面掲示を活用して、振り返りに利用する

教室の背面掲示物に、これまでに行った教材名とその授業を通して考えたキーワードを短冊に示していました。児童は、最も心に残っている教材を選んで、その短冊に自分の思いを書いた付箋を貼っていました。この掲示板は、児童の自己評価という意味だけでなく、授業者が自身の実践を振り返る評価材料にもなっているということでした。

２　変化を考えやすい構造的な板書の工夫

前半場面と、終末部分の間に、どのような変化があったのか考えやすい工夫がされていました。ネーム磁石をはることで、自分の考えを明確にし、話合い活動を行っていく途中での、考えの変化も見取ることのできる工夫がされていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

指名・発言の取り上げ方（P.８・９）
○発言を取り上げ、学級みんなのものにするのは、教師の役割
- 発言内容の共有化を図る。
- 発言のよさを的確に評価し、授業に生かす。（内容、態度）
- 発言者の考えを他の子どもの思考の材料にする工夫をする。

善通寺市立吉原小学校　第３学年国語科「おもしろいと思うところを、紹介しようー『三年とうげ』ー」（戸倉聖子先生）の実践に学ぶ

Q どうしても教師と子どもたちのやりとりになりがちです。子ども同士のかかわりを深めるには、どうすればよいのでしょう。

A まずは、一人の子の反応を教師が広げ、子ども同士の学び合いのきっかけをつくりましょう。

具体的実践から

１　発言者の考えを他の子どもの思考の材料にする工夫をする

子どもの発言だけでなく、動作化においても、子どもの工夫やよいところを取り上げて紹介しました。そして、そのような動作を行った理由を発表させることで、子どもの読みを全体に広げるようにしていました。動作化を思考の材料にすることで、心情や場面の状況を考えさせる実践でした。

２　発言に対して、意見を促す

「おじいさんが三年とうげを何度も転がった。」という子どもの発言に対して、「『何度も』って、どこから分かるの？」と教師が切り返しました。本文には、回数は直接書かれていません。しかし、叙述を基に、子どもが想像力を働かせて発言することを促し「何回とは書いていないけれど、ここから分かる。」という考えを引き出しました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

指名・発言の取り上げ方（P.８・９）
○発言を取り上げ、学級みんなのものにするのは、教師の役割
- 発言内容の共有化を図る。
- 発言のよさを的確に評価し、授業に生かす（内容、態度）
- 発言に対して、意見を促す。
- 発言者の考えを他の子どもの思考の材料にする工夫をする。

坂出市立川津小学校　第6学年道徳「あなたの立場と私の気持ち（教材名「お別れ会」）」
（岬育代先生）の実践に学ぶ

Q 道徳的価値に関する考えを表出させるために、どのようなことを子どもたちに意識付けていますか。

A 常に「何で？」と理由を考えることを意識付けることに心がけています。

具体的実践から

1　人物関係図の活用

中心人物の思いと同様、子どもたちも、友達への怒りが先立ちました。そこで教師は、登場人物の関係を人物関係図に示し、それぞれの思いや状況を客観的に捉えることができるようにしていました。いろいろな立場を踏まえて考え始めた子どもたちは、学び合いを通して、自然に自分の考えを深め、教師の押し付けではない学習が進められていました。

2　立場と考えを明示

「自分が直美だったら、どうするか？」ということについて、名前磁石で立場を明らかにするとともに、その理由を板書に残していました。行動が同じでも、思いは様々であるということを視覚的に捉えることができていました。児童の思考過程が残されていることで、振り返りにも生きる板書になっていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

板書（P.１２・１３）
○板書を構造化する。
- 学習内容や学習方法、児童生徒が学び合う場、授業の流れや子どもたちの考えの変化、ノートへの記録などを意識して「何を、どこに、どのように書くか」などの板書の構造を考えましょう。
- 子どもが参加する板書で、主体的な学習を進めましょう。
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。

三豊市立三野津中学校　第２学年美術科「仏像の魅力ー阿修羅像を鑑賞しようー」
（嶋田さゆり先生）の実践に学ぶ

Q　鑑賞教材は、生徒に興味・関心を持たせるのに苦労するのですが、何か工夫点はありますか。

A　導入でクイズや映像を効果的に使い、作品の形や色、全体のイメージ、時代背景等に興味を持たせるようにしましょう。

具体的実践から

１　学習意欲を高める指導

阿修羅像についてのクイズを導入部分で行うことで、生徒の興味を高めつつ、必要な知識を伝えることができていました。阿修羅像の手の部分に板磁石を貼って、弓矢等を持つことができるようにしており、生徒は様々な物を阿修羅像の手に持たせることで、本来の姿を想像することができていました。話合い活動では、教師が鑑賞の視点を示したり、状況に応じた助言を行ったりしていました。

２　板書の構造化

授業の内容が一目で分かる板書でした。特に目を引いたのが、観賞用に作成された等身大の阿修羅像パネルを板書の中に組み込み、まるで阿修羅像が喋っているかのような吹き出しを使い、知識や感想をまとめていました。教師が教材研究を重ね、生徒に身に付けさせたい力を見極めた上で、授業の内容を精選し、構成している板書でした。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

板書（Ｐ.１２・１３）
○板書を構造化する。
- 学習内容や学習方法、児童生徒が学び合う場、授業の流れや子どもたちの考えの変化、ノートへの記録などを意識して「何を、どこに、どのように書くか」などの板書の構造を考えましょう。
- 学習したことの記録として、学習過程や結果が分かる構成にしましょう。

宇多津町立宇多津北小学校　第５学年理科「台風と天気の変化」（高木佐和先生）の実践に学ぶ

Q　児童のノートの取り方が素晴らしかったですが、まとめ方をどのように指導すればよいですか。

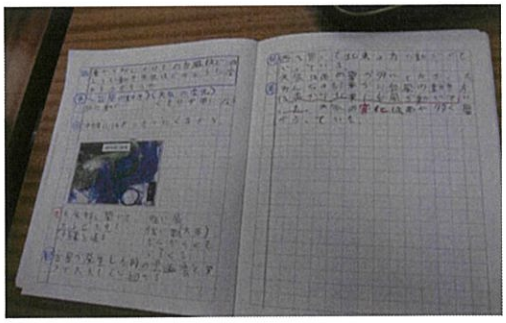
A　意見や主張を先に述べ、その後理由を述べるようにしましょう。見出しの表記や１時間を見開きにまとめるようにしましょう。

具体的実践から

１　意見のずれが起きることを予想した手立て

児童に台風の進路予想をさせる前に、個別に渡した衛星画像の方角を全体で確認していました。教室内には、方角が掲示されており、どの児童にも分かりやすい支援がありました。このように、児童のつまずきを予想し、全員で確認することで、本時の学習課題解決のための話し合い活動がスムーズに行える手立てが至るところに見られました。

２　学びの足跡が分かるノート



予想を「予」、考えたことは「考」、その時間で分かったこと、もっと知りたいこと等を「ふ」と書いていました。もっと知りたいことが、次時の学習につながることがあります。校内で統一された記号をノート左端に書くことが徹底されており、教科や担任が違っても同じノートの書き方でまとめることができるようにしていました。自分の考えたことを記録する場所や友だちの考えを書く場所が確保されており、１時間の授業を見開き２ページでまとめるようにし、授業後もノートを振り返ることができ、自分の学びの足跡が分かるノートづくりができていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

ノート指導（P.１４・１５）
○学びの振り返りができるような書き方を指導する。
- 子どもが自らの学びを振り返ることができるように書き方の指導を工夫しましょう。

Q 課題に対して、実験方法や結果を予想させる際のポイントはありますか。

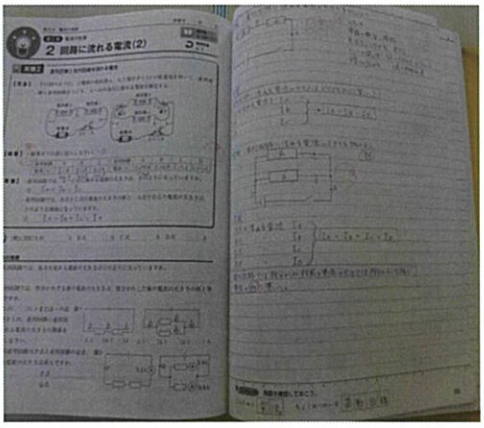
A 生徒の既有の知識や自己の体験を踏まえて考えることができる課題設定にしてみましょう。

具体的実践から

１　主体的に実験を行うための配慮

回路を組む際には、実験器具の掲示物を作成して生徒の目の前で思考操作を、実験では、班で役割分担をして一人一人に活躍の場を与えていました。実験中は、器具の不備が出ることを予想し、配線を持ち歩いて、すぐに交換できるようにしていました。教師の細かい配慮が行き届いているので、実験の手際も良く、男女で協力して積極的に実験を行っていました。

２　学びが分かるノート指導



実験の結果、考察、まとめの一連の流れが、どの生徒のノートにも記入されており、授業の振り返りがしやすくなっていました。回路図や問題等、一人一人のノートを授業中に点検しており、生徒がノートをとることに対しての意識や学ぶ意欲を高める源になっていると感じました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

ノート指導（P.１４・１５）
○ノート指導を通して、子どもの学ぶ意欲を高める。
・　ノートは子どもが書くものですが、学ぶ意欲を高める上では、仲間の承認、教師の助言や励まし、保護者の温かい言葉かけなどが大きな役割を果たします。

綾川町立羽床小学校　第６学年算数科「比例と反比例」（藤井博美先生）の実践に学ぶ

Q 全体交流の場面で、考え方の修正や確認をするために、どのようなことを意識すればよいですか。

A 教師が正すのではなく、児童同士の話合いの中で自然に修正が図れるようにしましょう。

具体的実践から

1　教師の的確な問い返し

児童が、自分の考えを「○ずつ増えている。」と発言した際に、教師が「何が増えているの？」と問い返したことで、公倍数で考えた児童の方法は、現在学習中の比例の考え方を使っていることに気付かせることができました。児童の発言に対して、的確な問い返しを行うことで、児童自ら、考え方の根拠を確認する姿が見られました。

2　教室の空きスペースの活用

教室の後ろが広く活用できるという小規模校のメリットを生かして、学習スペースを確保していました。教室後方に、マットを敷いて机を置き、「学び合いコーナー」を設置していました。そこでは、ホワイトボードに解決方法を書きながら、児童同士の自然な対話が展開されていました。授業時間だけでなく、休み時間等にも児童同士が相談しながら解決する姿が期待できました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。
- 意図を明確にしたら、単にグループ学習の時間をとるだけでなく、その意図を実現するために必要な「仕掛け」を考えましょう。

丸亀市立城辰小学校　第６学年音楽科「ボディサウンドリズムアンサンブルを楽しもう！！」（玉岡優子先生）の実践に学ぶ

Q グループ学習を行う際、どのような助言をすれば、しっかり課題に向き合わせることができるのでしょうか。

A 「ちょっと難しそうだけれど、できそう？」という課題だと、時間いっぱい集中して取り組むことができるようです。

具体的実践から

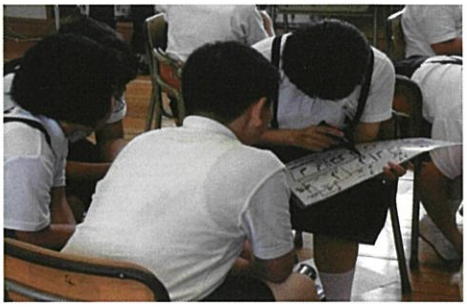
１　教材の工夫

グループごとの発表を行う際に、前時に録画しておいたビデオを見せてから、実際に演奏をさせることで、児童は、グループの演奏の変容を確かに捉えることができていました。

用紙（リズム譜）を挟み込んで、上から記入することのできるホワイトボードを用いることで、それを囲んで、それぞれの思いを書き込むなど、試行錯誤しながら、活発なグループ活動が展開されていました。

２　児童主体の積極的なグループ活動

「〇〇さん、これやって。」（指示、お願い）、「１小節ずつずらしてやろう。」（提案）、「なんか、リズムが違っていた。」（評価）、「〇〇ができん。」（援助の要請）、「わたしは、こうやってしているよ。」（主張）、「～したい。」（要請・要求）。このような話合いと試奏が繰り返されており、グループの演奏をよりよくしようとする意欲が伺えました。



「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６．１７）
〇「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。
- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため。
- 一人一人の活躍の場を増やすため。
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。

綾川町立綾南中学校　第１学年国語科「具体例を挙げて伝えよう～ことわざスピーチ～」（岡本智子先生）の実践に学ぶ

Q　「話す・聞く」力を高めていくためには、どのような工夫ができるのでしょうか。

A　話し手だけでなく、聞き手を意識した質問カードや聞き手の発言を取り上げる枠のあるワークシート等の工夫をしてみましょう。

具体的実践から

１　視覚支援の工夫

黒板に本時の流れを示し、現在の進行状況を磁石によって示す工夫がされていました。生徒が見通しをもって授業に臨むことができるだけでなく、教師自身も授業の進行状況を確認するのに有効であると感じました。授業展開順序だけでなく、話したり聞いたりする際のポイントや本時に活用できる話型を掲示することで、常に視覚に訴える支援が行われていました。

２　グループ活動時の適切な支援

本時は、４人グループでの活動に重点が置かれていましたが、話合いに入るとうまく発言できない生徒に寄り添って助言を与えたり、中盤で話が停滞しているグループには、なぜ行き詰ってしまったかを考えさせたりするなど、生徒の状況に応じた細やかな配慮が見られました。教師の温かく受容する態度が学級の雰囲気として根付いており、学級経営力が学習の深まりに大きく関わることを感じました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６．１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため。
- 一人一人の活躍の場を増やすため。

琴平町立琴平中学校　第１学年家庭科「生活を豊かにするための衣生活における技能
～ティッシュケースBOXの製作を通して～」（氏家智子先生）の実践に学ぶ

Q グループ学習を進めるうえで、どのようなことに配慮すればよいですか。

A 男女差があっても、仲良く教え合ったり、話し合ったりできる活動を日常の学級経営や他教科でも取り入れてみましょう。

具体的実践から

１　理由や原因を考えさせる

常に生徒が、疑問を持って授業に臨むことができるように、「どうして？」「なぜ？」と問い返すことで、自分の考えの理由や原因を考えさせるようにしていました。授業では、実際の生徒の失敗をビデオで再生し、そこでも「どうして？」「なぜ？」と問いかけることで課題意識を持たせてから、自分の考えを導き出させるようにしていました。

２　技能の差を補完する

アイロンやミシンの使い方については、小学校で学習していますが、日常生活での活用が不十分であるため、技能の定着が未熟です。そこで、製作時のつまずきを軽減させるために、製作前に使い方を再認識する時間を確保していました。また、グループで誰かが作業をしている時に、他の生徒が作業の様子を確認したり、アドバイスしたりすることで、技能の差を互いに補完する工夫が行われていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）
○効果的なグループ学習のために
- 素朴な疑問や感じたこと、確認したいことについて気軽に相談できる機会を増やす。
- 「教え合い」から「学び合い」へ、「話合い」から「聴き合い」へ

高松市立香東中学校　第１学年道徳「『さぬきの夢 2000』誕生」（廣田恵子先生）の実践に学ぶ

Q 資料の読み取りに終始しないように、どのようなことに気を付ければよいでしょうか。

A 子どもが自分のこととして考えられるような支援を、適切なタイミングで行いましょう。

具体的実践から

１　自己を見つめさせる多様な助言

資料を読む際には「自分のこととして考えてごらん。」「こんな気持ちを味わったことある？」、終末には「自分は何を大事にしたいかなあ。」と、常に答えはそれぞれの生徒の中にあることを意識させる声かけをしていました。そのため、授業終末のまとめは、それぞれ異なる「自分が大切にしたい生き方」が現れていました。

２　多様な道徳的価値が含まれている教材の特性を生かす

教材の特性を生かし、それに応じた効果的な手立てが行われていました。本時の主なグループ学習は、次の手順で進められました。

①登場人物の変容に関わる道徳的価値を見付け、各々で付箋に書き出す。②グループで、付箋を類型化する。③類型化したまとまりにネーミングする。④③の中で、大切にしたい順にホワイトボードに書き出す。⑤④を全体で発表するとともに、教師が多面的・多角的な考えを意識付ける。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため。
- 一人一人の活躍の場を増やすため。
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。

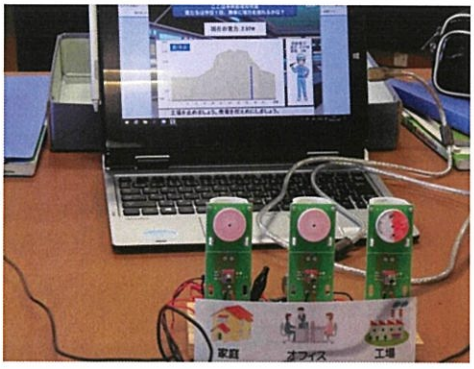
高松市立勝賀中学校　第２学年技術科「エネルギー変換に関する技術を未来に生かそう」（桃本貴之先生）の実践に学ぶ

Q 教室内の掲示物に、本時の学習と関連のある新聞記事が多くありましたが、どのように生かすことができますか。

A 災害や生活に必要なエネルギー（本時なら水力や風力）について考えるきっかけづくりになるよう、授業中に紹介する等しましょう。

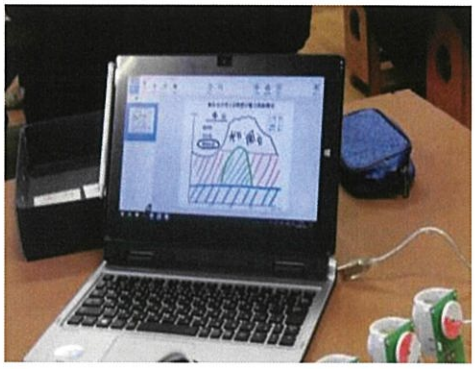
具体的実践から

１　生徒の実生活と関連した学習



手回しモーターを使って実際に発電を体験し、発電量がタブレットに提示される様子に驚いていた生徒もいましたが、発電の仕組みに気付くことができました。発電の組み合あわせを考えることは、難しかったですが、これまでの理科、社会科、家庭科、国語科の学習内容と関連させることができました。

２　次へのアプローチを考える



班ごとに考えた発電の組み合わせ方には、相違点もあり、現時点では、それがベストな方法かどうか判断はできませんが、将来的な展望のあるものもあったのではないかと後の討議で話題に上がりました。自分の考えた発電の組み合わせを将来的には、パブリックコメント等に送付する生徒が出てきてもいいのではないかと言う意見もあり、壮大な目標を持たせることができた教材でした。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため。
- 一人一人の活躍の場を増やすため。
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。

三木町立三木中学校　第２学年体育科「武道『剣道』」（来島恵子先生）の実践に学ぶ

Q 武道（剣道）についての課題解決学習が行われていましたが、効果的な話合い活動にするための工夫点はありますか。

A グループ内で実技を行う生徒とそれを観察する生徒に分け、見ていた側に『自分なら…』と考えさせ、解決を促してみましょう。

具体的実践から

１　考えを深めたり、新しい考えに気付き深めたりする工夫

４～５人でのグループ編成を行い、肯定的な雰囲気の中、自信のなさそうな生徒も必ず発言し、グループ全員で話合い活動ができていました。本時の話合い活動では、場面により、ペア・グループ・学級全体と活動形態を使い分けた工夫がされており、話し合いの視点も明確に示されていました。

２　共に学ぶことの良さを実感させる工夫

生徒の失敗や発言をもとに、一人ではなく、グループでの解決を促すような発問を多く取り入れていました。実際に面抜き胴で打突された生徒ではなく、観察していた生徒に「外から見ていたあなたならどうする？」と問いかけ、他の生徒に発言を求めることで、違う立場からの意見も参考にしながら、解決を促す場が設定されていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため。
- 一人一人の活躍の場を増やすため。
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。

東かがわ市立白鳥中学校　第１学年社会科「アフリカ州」（井原みゆき先生）の実践に学ぶ

Q 資料から必要な情報を読み取らせ、自分の考えとどうつなぐかが大切ですが、いくつぐらいの資料を提示すればよいですか。

A 本時の学習課題にふさわしい資料を２～３種類、精選しておきましょう。

具体的実践から

１　資料の関連性に気づかせる

本時は、課題解決のための視点を３つ提示し、グループごとに１視点ずつ分担して、話合い活動を行いました。各グループから発表される意見を聞きながら、最後には、それらの資料が全て関連していることに気付かせるしかけがありました。自分のグループに与えられた視点が分かると、即座に必要な資料を見付けることができていたことから、日常的な取組が大きな力になっていることが分かりました。

２　生徒の心に火をつけ、メッセージ性のある授業

普段自分たちが手軽に食べることができるチョコレートの原料であるカカオを１日中必死に採っている子どもの映像に見入る生徒の眼差しが印象的でした。そのような導入が、１時間中、生徒の学習意識を高めていました。最後は、本時の授業を通して、自分の身の回りの問題に目を向けることの大切さが教師から語られ、メッセージ性のある授業でした。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）
○効果的なグループ学習のために
- 素朴な疑問や感じたこと、確認したいことについて気軽に相談できる機会を増やす。
- 「教え合い」から「学び合い」へ、「話合い」から「聴き合い」へ

善通寺市立西中学校　第２学年社会科「銀の島はなぜ、鎖国したか」（笹本隆志先生）の実践に学ぶ

Q 生徒自身の言葉で授業終盤のまとめができるようにするために、どのようなことを意識していますか。

A その時間のめあてに対応した視点をいくつか与えるようにしましょう。

具体的実践から

１　課題解決に向かう工夫

４人グループでの学習場面が多かったですが、意図的に４人で一つの資料についての理解を深める場面と、異なる資料を持ち寄って４人グループで視野を広げる場面が設定されており、生徒が授業を通して課題解決に向かうことができるように工夫されていました。

２　生徒の言葉でまとめる

まとめの段階で授業者が意図した視点の獲得が不十分で、まとめきれずにいましたが、生徒の発表をもとに、再度グループで話し合わせる場面が見られました。生徒が困っていたり、迷っていたりした時に、教師が準備しておいた答えをすぐに与えるのではなく、さらに、何に着目すればよいかなど、新たな視点を与えることで、グループの考えを一層深めさせ、生徒の言葉で学習のまとめを行うことができていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため

○効果的なグループ学習のために

- 素朴な疑問や感じたこと、確認したいことについて気軽に相談できる機会を増やす

さぬき市立さぬき南中学校　第３学年数学科「平方根」（山下司先生）の実践に学ぶ

Q 問題の意味が理解できにくい生徒に、どのような手立てをすることができますか。

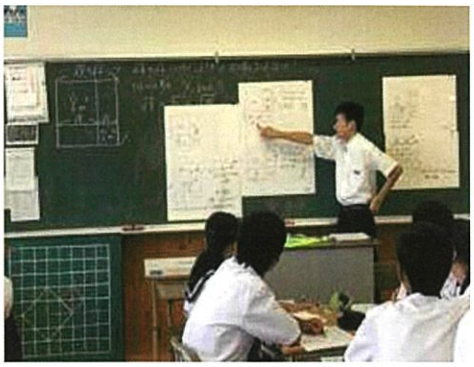
A 提示した文章題に対して、選択肢を与えることで、生徒の実態把握をするようにしてみましょう。

具体的実践から

１　問題把握をグループで

問題の意図の把握にあたっては、示した文章題に対して「①正しい②正しくない③分からない④問題の意味が理解できない」のうちから予想、選択させ、生徒の実態把握を行いました。その後、グループで予想についての意見交換を行い、問題の意味が理解できていない生徒に課題把握できる機会をつくっていました。

２　目的のあるグループ学習



本時は、２つの目的のためにグループ学習の機会を設けていました。展開場面でのグループ学習では「√８＋√２」を別の表現で表すことができるかという課題を解決するための学習でした。正方形の一辺を表現するにあたって、その面積が分かれば求めることができることに着目し、意見交換できました。活動の見通しについて確認することで、生徒の思考を焦点化できると思いました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６．１７）
○効果的なグループ学習のために
- 素朴な疑問や感じたこと、確認したいことについて気軽に相談できる機会を増やす。
- 意見の位置付けを明確にするために、結論から述べる話し方、立場を聴き分ける聴き方を助言する。

まんのう町立満濃中学校　第３学年道徳「二通の手紙」（瀬川恵理先生）の実践に学ぶ

Q　「考え、議論する道徳」の授業になるよう努めています。子ども任せにならないようにするには、どのような手立てがありますか。

A　道徳的価値の理解を深める教師の出番をつくりましょう。

具体的実践から

１　考えさせるポイントをあらかじめ意図しておく

グループ学習等、生徒主体の場が多く設定されていました。しかし、生徒まかせで終わることなく、タイミングよく教師が介入することが、生徒の考えを引き出し、本音を語らせるきっかけになっていました。

例）：発表が沈滞しかけた際に

「普通、罰せられたら、こんちくしょうって思うよね。でも、何で『晴れ晴れ』なの？」

２　考えの違いに着目し、交流へ

心情円盤を使って自分の考えを視覚化し、黒板にネームプレートを表示することで、一人一人の立場をはっきりさせ、違う立場同士のグループでの話合いへとつなぎました。ワークシートにも、授業前と授業終盤の心情円盤があり、自分の考えの深まりを自覚できるような手立てが工夫されていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

グループ学習（P.１６・１７）

○「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため。
- 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため。

高松市立中央小学校　第１学年生活科「みんないっしょに パート２」（大野祐一先生）の実践に学ぶ

Q 低学年の児童にとっては、グループ学習を自分たちで進めるのが難しいのですが、何かよい手立てはありますか。

A グループ学習に、動作化等の具体的な活動を取り入れるようにしています。

具体的実践から

１　安心感のある学級の雰囲気づくり

どの児童の意見も肯定的に受け入れて、温かく見守る教師の姿勢が一貫していました。そのため、児童も友だちの意見を受け入れ、互いに認め合おうとしている場面がたくさん見受けられました。安心感が児童の意欲や主体性を引き出しているのを感じました。

２　具体的な活動を取り入れる

低学年の児童がグループ学習を自分たちで進めることができるようにするためには、グループ学習の手順を示すことのほか、動作化などの具体的な活動を取り入れることが有効です。

本時では、家庭でのお手伝いの様子を動作化させることで、お手伝いの様子をイメージとして共有することができ、「どうしてそのようにするの？」「もう一度やってみて」「このようにしたらいいよ」など、自然なやりとりが活発に行われていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

学習意欲を高める指導（P.１８・１９）
○子どもが、安心して学ぶことができる関係性をつくれるよう働きかけましょう。
・　互いに気遣うように促す。
・　お互いに認め合ったり褒め合ったりさせる。
グループ学習（P.１６・１７）
○効果的なグループ学習のために

観音寺市立常磐小学校　第6学年体育科「みんながシュート！バスケットボール」（宇川明子先生）の実践に学ぶ

Q 運動の苦手な子どもも意欲的に活動し、達成感を味わえるようにするためには、どのような手立てができますか。

A 個人の伸びを把握し、グループ活動や練習中に、教師や友達が称賛や励ましの声をかけるようにしましょう。

具体的実践から

1　グループの誰もが活躍できるようにするために

これまでに学習してきた作戦を整理して掲示することで、自分のグループに合った作戦を選択できるようにしていました。選択した作戦を練習する時間を確保することで、具体的に誰が、どのように動けばよいのかということを共通理解してから試合を行ったので、グループ内の誰もが自主的に動いて、試合を楽しむことができていました。

2　協力しながら課題解決することのよさを理解させるために

チームプレーの大切さを理解させるために、「みんなで教え合いながら問題を終わらせた。」「協力したら給食の準備が早くできた。」等、日常生活と関連させながら協力して課題解決に取り組むことの有効性を伝えることで、グループ活動や試合に主体的に取り組むことができていました。グループごとの練習時に「何でその練習をしているの？」「何で拍手したの？」と根拠を尋ねることで、相手の意図を知ったり、グループ内の考えを共有したりすることにつながっていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

学習意欲を高める指導（P.１８・１９）
○子ども自身が選択したり、判断したりできる場面をつくりましょう。
・子どもが選択・決定する機会をつくる。
○子どもが安心して学ぶことができる関係性をつくれるよう働きかけましょう。
・お互いに認め合ったり褒め合ったりさせる。

さぬき市立さぬき南小学校　第６学年図画工作科「筆あと研究所」（大北ゆうこ先生）の実践に学ぶ

Q 相づちを打ちながら話を聞いており、学級内に肯定的な雰囲気がありましたが、どのようなことに心がければよいですか。

A 教師が話しすぎることなく、子どもたちに課題解決をさせることを意識してみましょう。

具体的実践から

１　筆あとに注目できる導入の工夫

筆あとの特徴が異なる２つの作品のパズルを混ぜて、各班に配布し、楽しみながらピースを組み合わせていくことで、筆あとに注目できる導入を工夫していました。「点々みたい。」「描き方が違う。」等のつぶやきが自然に出てきた際に、授業者は「どうしてそう思う？」「本当？」と声をかけ、一人一人が自分なりの考えをもち、鑑賞を深めていく支援がありました。

２　作品の大きさを実感させる工夫

美術作品の鑑賞では、できるだけ実際の作品に近いものを準備することが多いですが、大きい作品の場合は、新聞紙等を使い、大きさを実感させることが大変効果的だと感じました。今回の作品は、明るい色面を目指し、できるだけ混色を避け点描で彩色されているので、色彩を視覚的に混色でき、そのため大画面が必要であることが理解できる工夫でした。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

学習意欲を高める指導（P.１８・１９）
○子どもが、「できるようになりたい」「挑戦したい」と思える工夫をしましょう。
- 目指すべき姿をイメージさせ、学習の仕方に見通しを持たせる。
- 適度に挑戦的な課題を与える。
- 振り返りを充実させる。

高松市立川東小学校　第５学年理科「物の溶け方」（芥慎太郎先生）の実践に学ぶ

Q 実験の考察を子どもたちが個々に考えることができるようにするためには、どのようにすればよいですか。

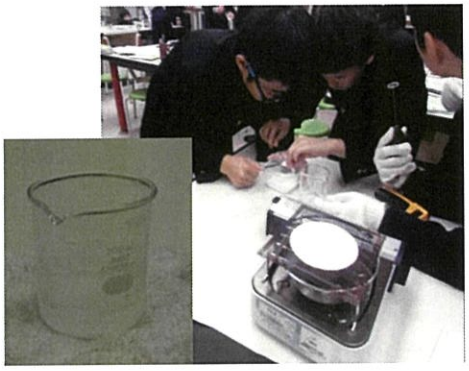
A できるだけ、全ての班の実験結果が見えるようにし、そこから相違点等に目を向けさせるようにしましょう。

具体的実践から

1　視覚に訴える板書から考察する

教卓の上にあるＰＣに実験結果を入力すると、自動で結果が柱状グラフになり、前面のホワイトボードに表れるようになっており、本時のミョウバンが溶けた量の変化と前時の食塩が溶けた量の変化を比較しながら考えることができました。この板書をもとにしながら、考察は個々にノートに書く時間を確保しており、主体的に考えることができていました。

2　次時への学習意欲を持たせるために



授業の終末において、実験でできたミョウバン水を意図的に机上に残したままにしておきました。時間とともに、徐々に変化していくビーカーの様子に気付いた児童が「何か出てきた。冷やして調べてみたい。」と発言したことで、次時への課題をもつことができました。本時の実験結果をまとめて終わるだけでなく、次時の課題へとつながる工夫ができていました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

考える力を育てる指導（P.２０・２１）
○考えたくなる課題を設定する。
- 考えたくなる課題や考える必要感のある課題を子どもが見付けられるように、考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりします。

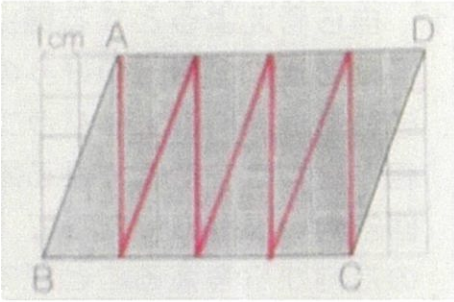
高松市立亀阜小学校　第５学年算数科「めざせ！面積マイスター」（浅野巳代先生）の実践に学ぶ

Q　どのようにすれば、自分の考えをもち、意見をつないでいく子どもにすることができるのですか。

A　本単元で目指す児童の姿を明確にして支援を考えたり、普段から意見が言える雰囲気作りをしたりすることを大切にしましょう。

具体的実践から

１　想定する姿に導く状況設定



求積公式とつなぐために、平行四辺形を多様に変形させて面積を求める姿を想定していました。実際の大きさとは違う方眼紙を使うことで、ものさしで長さを測ることができない状況を作り、児童が自然に変形して考えることに導くことができました。分割する回数の多い考えも取り上げることで、児童は「これも公式にまとめることができるのかな。」と考え始め、公式づくりへの意欲化を図ることもできていました。

２　考えを話したくなる雰囲気づくり

自分で考えた後、「相談タイム」を設定することで、自分の考えの修正を行うことができ、自信をもって全体交流に臨むことができていました。全体交流では、一人目の児童が「対角線で２つの三角形に分けました。」と最初の手順だけを発言し、次の児童が次の手順で必要な情報を話すというように、みんなで少しずつつないで考えを作り上げていっていました。筋道立てて考えることを大切にする算数科においては、有効な取組です。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

考える力を育てる指導（P.２０・２１）
○思考力の働いている子どもを具体的な姿で描く。
・　その単元、あるいは本時の学習の中で、どのような思考ができればよいのか、目指す子ども像を具体的に描いてみましょう。
○子どもが考える場面を十分に確保する。
・　子どもたちが考える時間の確保

さぬき市立石田小学校　第５学年家庭科「自分も家族も食べて元気！～ご飯とみそ汁」（藤井浩子先生）の実践を通して

Q 調理実習が、ただ楽しいというだけで終わることがないように、どのようなことをしていけばよいのでしょうか。

A 班で実を決める（討議）、栄養的にふさわしいかどうか（思考）、みそ汁を作る（実践）というように広がりをもたせましょう。

具体的実践から

１　自ら考えようとする機会や修正する機会を与える

みそ汁に、自分の好みの実だけを用いるのではなく、栄養バランスの良い実の組み合わせを考えさせる際、常に児童の回答やつぶやきに対して「何で？」「他の方向から考えることができないかな？」等と問いかけることで、学習課題からそれること無く、再度自ら考える機会や自分の考えを修正する機会を与えていました。

２　実生活と結び付けて学ぶ環境を与える

児童の発言にも「給食で食べて美味しかった。」「旬だから」等と、実生活の中から学んだ発言が多くありました。教室掲示にも、米作りや地域の伝統行事とも結びついた食文化について調べ学習をした足跡が残されており、家庭科で学んだことが食育に結び付く学習であることを意識した授業でした。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

考える力をそう立てる指導（P.２０・２１）

○考えたくなる課題を設定する。

- 考えたくなる課題や考える必要感のある課題を子どもが見付けられるように考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりします。

○課題解決の手掛かりに気付かせる。

- 「考える視点」「考える手順」

多度津町市豊原小学校　第６学年社会科「新しい時代の幕開け」（荻田由美先生）の実践に学ぶ

Q 児童の意識を喚起させるための効果的な支援として、どのようなことができますか。

A 社会科は、提示する資料が大事。児童が「えっ！」と思う資料を使用し、学習意欲を高めましょう。

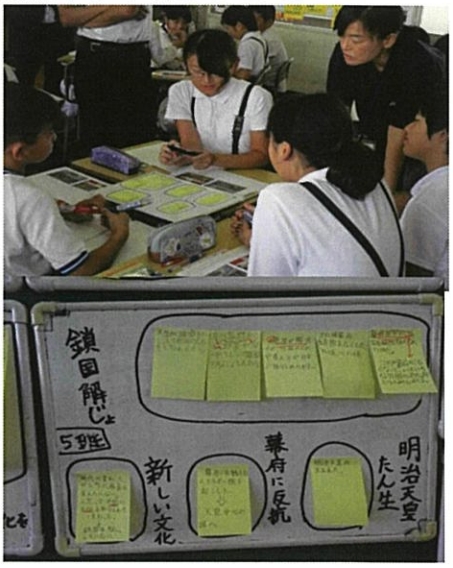
具体的実践から

１　学習課題の明確化

２枚の絵図の比較を通して、時代の変化を捉え、考えたくなる課題を設定していました。絵図を見ての気付きやつぶやきを上手く拾い、それらをもとに課題意識を高めていくことで、後の話合い活動もスムーズに行うことができていました。

２　話し合って考える場を確保し、「考える視点」に気付かせる

時代の変化の要因に対する個々の考えを出し合い、グループで整理・統合・カテゴリー化して、まとめていきました。複数の意見の共通点をキーワードでまとめ、整理してから全体の場で説明することで、後の学習における「考える視点」となるように授業が仕組まれていました。考える視点として「だれが・どのように」という点から学習課題に迫っていき、それぞれの考えを発言する手立てが明確に示されていました。



「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

考える力を育てる（Ｐ２０・２１）
○考えたく課題を設定する。
・　考えたくなる課題や考える必要のある課題を子どもが見付けられるように、考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりします。
○課題解決の手掛かりに気付かせる。

高松市立桜町中学校　第３学年国語科「いにしえの心と語らう『君待つと　万葉・古今・新古今」（藤原貴美子先生）の実践を通して

Q　和歌の学習というと、音読、読解というパターンになりがちで、生徒が教師の説明を聞くだけになることがあるのですが、何かよい方法はありますか。

A　単元の最初に、和歌の読み味わい方を学習することで、学んだことをもとに、生徒自らが思考力を発揮しながら、和歌の読みを深められるようにしています。

具体的実践から

１　楽しみながら和歌の鑑賞方法を身につける

導入でＡ・Ｂ二つの和歌（一首は元の表現を一部変えたもの）を提示し、どちらの和歌が優れていると思うか、まず批評させました。作者は、男か女か、優れているのはＡかＢか、と自分の立場を決めて意見交換をした後、生徒の発表内容もとに、作品の詳細を明かしていくなど、１時間をかけて謎解きゲームをしているかのように、楽しみながら和歌の鑑賞法を身に付けることができていました。

２　教師の意図と生徒の実態を生かしたワークシート

生徒に授業の先を見透かされないように、枠だけのワークシートを与えましたが、その分生徒は、教師の説明をしっかりと聞き、自分なりに大切だと思ったことはメモをとっていました。ただ、これは、普段からの学習習慣が問われるため、どのような力を付けさせたいのかという教師の意図と生徒の実態に合わせたものにしていく必要があります。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

考える力を育てる指導（P.２０・２１）
○課題解決の手掛かりに気付かせる
- ①考える視点　②「考える手順」
- 課題解決の過程を振返る。

丸亀市立西中学校　第２学年数学科「１次関数」（味口理奈先生）の実践に学ぶ

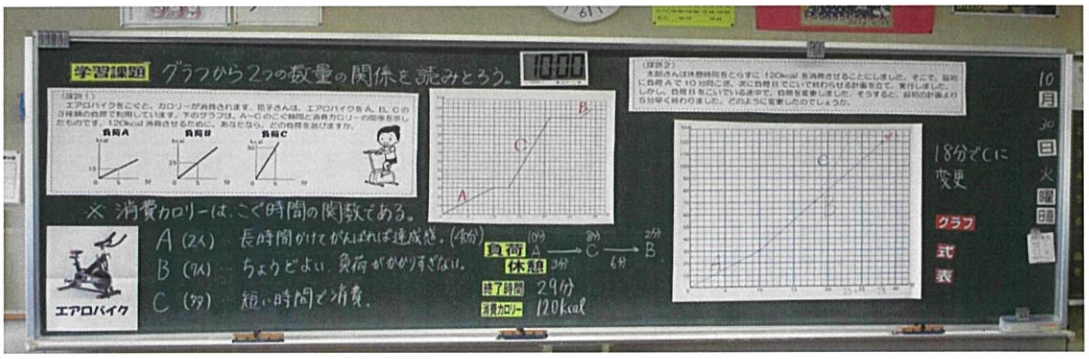
Q　問題文が長くなると、学習課題の把握が困難な生徒がいますが、課題把握をさせるためにどのようなことができますか。

A　問題場面をより正確に理解できるように、生徒の普段の生活と重なる話題を提示するようにしてみてはどうでしょう。

具体的実践から

１　普段の生活と重ねて考える

エアロバイクの負荷を示したグラフを読み取る場面においては、３つのグラフの傾きに着目させ、その違いが現実の場面では、普段乗っている自転車のギアの切り替えによる負荷の違いとつないで考えさせていました。普段、自分がどのギアを使うことが多いのかということもあわせて問い、数学と日常をつなぐことの価値を授業者がもっていると感じました。



２　数学的な見方・考え方を働かせる

課題解決には、何に着目して、どのように考え進めるかといった「数学的な見方・考え方」を働かせる必要があります。グラフにかかれた直線の傾きに着目することで、エアロバイクを使う様子を読み取ることができ、ｘやｙの変域に着目することで、それぞれの活動時間消費カロリーを読み取ることができます。生徒がこれらに気付くための手立てこそが、目指す資質能力を身に付けさせるために必要だと感じました。

「さぬきの授業基礎・基本〔改訂版〕」では

考える力を育てる（P.２０・２１）
○考えたくなる課題を設定する。
- 考えたくなる課題や考える必要感のある課題を子どもが見付けられるように、考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりします。

Ⅲ　おわりに

印象に残った総合授業カリーダーの先生方の言葉を紹介します。

○　『昔は、私もひたすら叱っていました。でも、それでは改善しないことに気付き、その子の状況を把握した上で、自分で考えさせるようにしました。それを根気強く続けるようにしました。私の中で、その子の到達目標を描き、そこに近づけるような授業を心がけています。』

「自分の学級に学習に対して意欲を示さない子どもがいます。どのように対応したらよいのか日々悩んでいます。」との質問に対する授業者の言葉です。子どもの特性を見極め、その子に応じた支援方法を考え、どの子どもにも分かる授業、「できた。」という充実感を味わわせることのできる授業を心がけていることが伝わってきました。

○　『中学校に入学して、最初の鑑賞の授業だからこそ、鑑賞って楽しいというイメージをもたせたいので、オリジナル教材を使っています。失敗しない教材なので、どんどん使って欲しいです。』

この先、何回かある中学校での音楽の鑑賞。中学１年生の生徒にとって、今後の鑑賞の授業をイメージづける時間になるからこそ、教材との出会いを大切にしている教師の思いが伝わってきます。また、参会者にオリジナル教材を快く提供してくださったことに、若年の先生方を育てていこうとする使命感を感じました。

授業に臨む姿勢や、教材研究の深さ、子どもたちを優しく見守る眼差し、子どもたちとの温かい関係、綿密な指導計画等、学ぶべきたくさんのことが、総合授業カリーダーの先生方の実践をからみてとれます。本冊子が授業改善のきっかけとなり、子どもたちの「夢と笑顔」につながることを心から願っています。

さぬきの教員　かかわりの三訓

一　共感的に受け止め

二　チームの力で

三　毅然と粘り強く

香川県教育委員会

さぬきっ子　学びの三訓

一　準備して

二　姿勢整え

三　しっかり聞こう

香川県教育委員会